

美術

「パブロ＝ピカソ」造形の冒険者に学ぶ

1年2組

授業者 飯島 稔夫

■ 単元の目標

- ピカソの作品や生き方に興味を持ち、意欲的に調べたり感じたりすることができる。
- ピカソの作品のよさや特徴、生き方の素晴らしさを感じ取ることができる。

■ I C T 活用の視点

○ 思考を促す道具としての ICT の活用

授業中にデジタルコンテンツとしてコンピュータに取り込んだ画像をプロジェクターで大きく投影し、全体を映したり、部分を拡大して映したりするなど自在に投影することによって、現在の話題がどこにあるのかを視覚的に確かめながら学習に取り組むことができる。

○ 創造性を促す道具としての ICT の活用

デジタルデータを用いることにより、作品の部分をクローズアップして提示することができ、実際の作品では「近づいて見る」ということを「部分を拡大して見る」ということに置き換えて鑑賞することができ、実物の作品を鑑賞することと同じように学習を進めることができる。

○ 本時における ICT 機器の位置づけ

本時においては、作品鑑賞における教材提示装置としてコンピュータとプロジェクターを ICT 機器を利用していいる。特別なソフトは利用せず、Microsoft office Picture Manager を利用して画像の提示、拡大・縮小を行う。

■ 本時の授業の概要

本時の授業では、パブロ＝ピカソの生涯と多様な表現の仕方について学習し、よく知られているピカソの作品がなぜつくられたのかを知るとともに、キュビズムによる表現の意図について簡単に理解できるようとする。また、代表作の1つである「泣く女」(1937年)を鑑賞し、その表現を分析的に観察することにより、作品を読み取る学習を行う。この中では、コンピュータとプロジェクターを用いて、作品の全体や部分を提示しながら、全員で作品の映像を前にして話し合い、自由に意見を発表しながら、生徒に表現の意図について考えることができるようとする。

学習活動	指導上の留意点
1. 学習課題を知る。 パブロ＝ピカソはどんな作品をつくった作家だろうか。	
2. ピカソについて知っていることをワークシートに書き、発表する。	知っている作品名や作品の特徴など何でもよいのでワークシートに書くとともに発表してもらう。
3. ピカソの生涯と作品について調べ、簡単な年表にまとめる。	教科書や資料をもとに、年表に穴埋めをしてまとめるとともに、紹介されている作品からピカソの作風の変化をとらえられるようにする。
4. 「泣く女」(1937年)を全員で話し合いながら鑑賞する。 • 何が描かれているか • 色彩から受ける感じにはどのようなものがあるか。 • モデルの人はどんな人だろうか。 • モデルの人はなぜ泣いているのか。	コンピュータとプロジェクターを使用し、大きな画面に作品を映し出すとともに、鑑賞する視点を与えて、作品を見ながら考えることができるようにする。 この場面では、できるだけ多くの意見が出るように支援する。
5. 鑑賞して気付いたことや分かったことをワークシートにまとめる。	作品が描かれた背景などは、必要に応じて説明するようにして、できるだけ自由に発想できるようにする。
	鑑賞して気付いたことや分かったことを自分の言葉でワークシートにまとめる。